

沖縄県医療ソーシャルワーカー協会

MSW ニュース 10月号

2019年10月1日発行

事務局：大浜第一病院

〒902-8571 那覇市天久 1000 番地

TEL (098) 866 - 5171

FAX (098) 864 - 1874

E-mail t-matayosi@ns.omotokai.jp

編集：安里 徳幸（沖縄赤十字病院）

\*\*\*\*\*

MSW ニュースは毎月1日  
県医療ソーシャルワーカー協会  
ホームページに更新掲載されています

<http://www.msw-oaswhs.jp/>

\*\*\*\*\*

CONTENTS

研修報告	2～4
在宅医療・介護連携 報告	5
自主勉強会報告	5～6
トピックス	7
新入会員紹介	7～8
部会からのお知らせ	8～9
9月理事運営会議録	9～12
はいさいワーク	12

## 研修報告

### 「医療ソーシャルワーカー基幹研修Ⅰ

(第80回医療ソーシャルワーカー初任者講習会)」に参加して」

大浜第二病院 銘苺由紀子

令和1年8月8日から12日迄の5日間、公益財団法人日本医療社会福祉協会主催の2019年医療ソーシャルワーカー基幹研修Ⅰ【東京会場】へ参加させていただきました。

本研修は3年未満の医療ソーシャルワーカーが対象で、厚生労働行政の動向から医療ソーシャルワーカーの成立と課題、支援方法論、医学知識、社会保障制度、家族理解など幅広い内容となっていました。講師の先生方も厚生労働省に出向された方や、経験豊富な協会役員の方々、実際に専門的な臨床に関わっている医師の方々が実際の事例を交えてわかりやすく講義してくださりました。

最も印象的だったのは、『医療ソーシャルワーカーの成立と課題』の講義の中で、地域包括ケアシステムの構築を見据えて、これからの医療ソーシャルワークで私たち医療ソーシャルワーカーはミクロの支援技術は当然卓越していること。そのうえで国の方向性、医療政策の流れを読む力、そして流れにのる。しかし流されない。社会福祉専門職の医療ソーシャルワーカーが医療分野にいる意味を常に考える。国民にとって、私たちがかわることで何が幸せになるのか、大きな福祉の視点をもたなければならないと話されていました。これからの実践において、医療ソーシャルワーカーの価値・倫理を念頭に、病院の中にある福祉職として福祉の視点で行動していくという決意を新たにしました。

今回、研修に参加させていただくにあたり、日々のソーシャルワーク実践の過程で、迷いやこれで良かったのかと思うことや、自信が持てない場面もあり、研修をとおして実践の振り返りをしながら、医療ソーシャルワーカーの価値・倫理を更に深め、一つでも多くの知識や技術を学びたいと思い参加させていただきました。研修では他の参加者とグループワーク等で交流する機会もあり、同じように不安やジレンマを抱いていたこともわかりました。仲間がこんなにいる、指導してくださる方々にも恵まれている環境にいる事にも改めて気づくことができ、学びの多い研修内容でした。

---

## 「慢性期病棟協会SW部会研修会～事例検討会～」に参加して

翔南病院 山里 守三郎

---

令和1年9月5日(木)嶺井リハビリ病院(浦添市牧港)におきまして、事例検討会が行われました。スーパーバイザーとして樋口美智子氏(沖縄国際大学 総合文化学科 人間福祉学科 准教授)を招聘し、謝敷奈津子氏(大浜第二病院:MSW)より事例提出をしていただきました。

50代女性、気管切開、胃瘻造設、左片麻痺あり。夫は不定期の土木の仕事をしている。息子が3人おり、末っ子が高校受験生。入院費の未納があり、「これ以上入院を長引かせないでほしい。」との家族からの要望あり。生活保護申請をされるも夫の理解が得られず、再度幾度となく申請却下となる。その後、貧血がみられ輸血をすることにより病状は改善するものであったが、入院を長引かせたくないとの家族の思いで輸血を拒否。多職種との協議を経て、家族より輸血拒否書へサインをいただく。その後、夜間うつ血性心不全にて呼吸停止で発見された。発症より8年3ヶ月間の入院期間であった。

3年目を迎える MSW:謝敷氏は、事例提出理由として本人や家族の気持ちを汲み取る為に、入院期間中に何かもっと良い支援が出来たのではないかと自分の働きかけの無さに「もやもや感」を抱き続けていたためと話されていました。MSW は、治療を拒否していた夫が妻への声かけや疎遠であった兄弟へ連絡するなど妻への思いやりを確認しており、夫のストレスを評価しています。

結果的には、経済的な理由(入院費用)で「治療拒否」の選択肢を選ぶことになりました。生活保護につながれば、また違う展開になったかもしれないという思いがあり、MSWに限らず多職種の方々もおそらくフラストレーションが溜ったことだと思われます。

患者さんが入院していることで、家族の生活が困窮することがあります。一方、患者さんが生き続けているだけで家族の生活を支えているケースもあります。MSW が関わる中で望ましいアプローチはあったとしても、答えは1つではありません。私たちの悩みも無限大からの、エンドレス……。謝敷氏と同じ気持ちの「もやもや感」も体験しました。

MSW:18名と県内の大学生:8名も参加されました。自分の意見をはっきりと言える大学生に感動し、私はいい刺激(危機感)を得ることが出来ました。樋口氏の愛情あふれる眼差し、的確な時間配分、グループスーパービジョンの進め方は、勉強になりました。



「2019 年度沖縄県医療ソーシャルワーカー協会 初任者研修 アンケート集計」

株式会社 千家 香村真範

今年度の初任者研修が、8/4を持ちまして全日程を終えることができました。ここでは、今年度からプログラムに組み込まれた「医学講座(脳卒中、糖尿病)」の2回目を中心にご報告いたします。

全体を通した参加者は、1回目 25名 2回目 19名 3回目 19名 4回目 18名 の参加を頂きました。内、8名が全課程を修了しております。

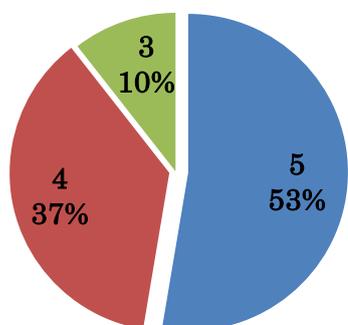
7/13(土) 医学講座 脳卒中 講師:金城正高 先生(県立中部病院 神経内科医)

糖尿病 講師:島袋瑞枝 先生(県立中部病院 糖尿病認定看護師)

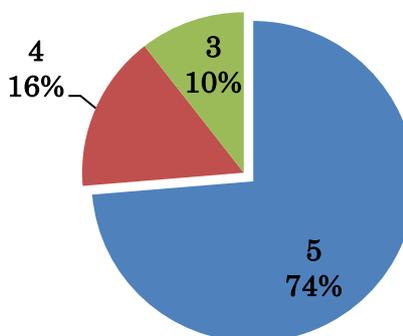
2回目参加者の所属機関別で見ますと、急性期47%、一般21%、回復期と療養がそれぞれ16%。経験年数は、1年未満68%、1~3年未満32%となります。

脳卒中 満足度

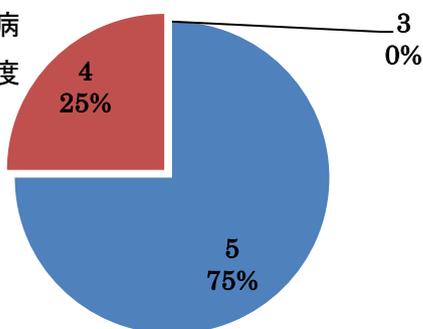
5 高い ⇔ 低い 1



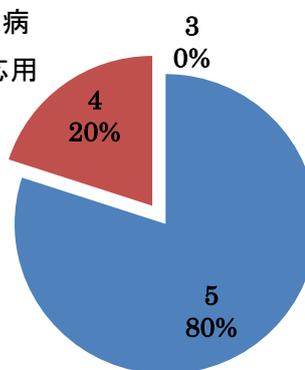
脳卒中 実践に応用できるか



糖尿病 満足度



糖尿病 実践に応用できるか



上記数値から、満足度が高いこと、実践に役立つ講義になったことが伺えます。

脳卒中のアンケートから「病気をみるだけでなく、生活やその身体の情報から様々な視点をもつことが大切だということが学べた」、「医学知識が不足していることを実感した。MSWだからではなく、医療の場で働く人としてとてもよい学びになった」。糖尿病では「壊疽の画像をみてフットケアの重要性がわかり、治療と生活は結びついていると思った」、「インスリン注射を初めて使ってみてイメージしやすかった。今後、患者と関わるうえで良い機会となりました」、「病気の理解を深めることができたので良かった。今回学んだことを患者さん理解へとつなげ、様々な面から患者様をみる視点を大切にしたい」等のコメントがありました。初任者の皆様が、この研修から学んだこと、感じたことを実践の場で活かし活躍していくことを願っております。今年度の講義を全て受講した皆様には、認定医療社会福祉士制度における研修ポイント換算となり、27ポイントの認定となります。修了証と一緒に後日発送いたします。最後に本研修へご理解、ご協力いただきました皆さんへ感謝申し上げ、簡単ではありますがご報告とします。

## 在宅医療・介護連携 報告

### 令和元年度沖縄県入退院支援連携デザイン事業

#### 「入退院調整に係る基本指針策定に向けた圏域別調整会議(中部圏域)」

中部病院 地域連携室 喜舎場 利恵

令和元年8月27日20時より中部地区医師会にて、沖縄県入退院支援連携デザイン事業「第1回 中部圏域調整会議」が行われ、初めて参加させていただきました。メンバーには CM 協会・MSW 協会・中部地区急性期病院・中部地区クリニックの代表など全体で30名あまりの参加がありました。

会議の内容としては、沖縄県高齢者福祉介護課 介護企画班の富山氏より①沖縄県における入退院調整にかかる基本指針策定の流れ。②入退院調整に係る基本的なルール(基本指針案)について。③今後のスケジュールについての説明が行われたあと、入退院調整に係る基本的なルール(基本指針案)とその他課題についての意見交換が行われました。

沖縄県では3年ごとに見直される高齢者保健福祉計画を来年から策定するにあたり、医療・介護のニーズの増加に伴う、医療・介護の連携をスムーズに行うために沖縄県として入退院支援連携に関する基本指針(案)～入退院に関する基本的なマナー～を作成。医療・介護従事者のみに向けた基本的マナーだけでなく、ご本人やご家族むけのお願いも同時に作成。医療・介護従事者むけには基本的マナーと事例を一緒に周知していくことを検討していると説明がありました。参加者よりこれまで同様のルールなど冊子が各病院に配布されていたりしていたが、浸透していない理由に対して考察・分析・対策はたてているのか。今後周知していくにあたり誰が、どこで、どのように広報・周知していくのか。浸透しているかの評価の必要性など意見があがりました。

沖縄県としては各病院・各施設など必要機関に「ポスター」という形で目につくところに掲示することを検討しており、関係機関へ協力依頼していく予定。評価については市民向け講座や他職種連携会議などでポスターを見たことがあるかなどアンケートをいれることで、一定程度ポスターが周知されていることの判断ができるのではないかなど、評価をするための手段について提案がありました。

ルールの策定とそれをどう周知していくか、1時間という時間の中で活発な意見交換が行われていました。

## 自主勉強会報告

### 令和元年度 第6回 めだかの学校 報告書

北中城若松病院 医療福祉相談課 安里愛理

9月11日(水)宜野湾記念病院にてめだかの学校が開催されました。

今回は、「カンファレンス進行に基づく課題」についてということで各病棟のカンファレンス進行について意見

交換を行いました。急性期病院、一般病棟、地域包括ケア病棟、回復期リハビリ病棟の機能を持ったメンバーが集まって意見交換を行いました。各病院のカンファレンスについて開催目的が多様であることに気づきました。私が日ごろ当たり前のように行ってきたカンファレンスとの違いに驚きも感じました。しかし、各病院の機能や役割を考えていながらカンファレンスのあり方についても知る良い機会となりました。

また、今回は講師調整をせずに各病院の状況や日ごろ行っていることを報告しながらの勉強会となりましたが、様々な視点でカンファレンスから繋がる話題へも話を広げていくことができました。更に掘り下げて検討していけるような場を持ちながら、先輩方のアドバイスも頂き学びの深いめだかの学校での自主勉強会が主催できるようにしていきたいと思います。

---

## めだかのホームルーム

沖縄赤十字病院 兼濱 愛里

---

9月15日(日)～16日(月)に久米島で行われた「めだかのホームルーム」について報告します。シルバーウィークを利用した宿泊研修で、協会員の参加は8人でした。

今回は、久米島病院の新垣美鈴さんに親から子への虐待が起きている家庭への支援について事例提供していただきました。診察の時に子から虐待のことが告白されますが、実は親自身も支援が必要な状況だとわかります。そこから親子分離・親子再統合へと多機関が関わりながら支援が展開されていく過程のダイナミックさに圧倒されながらとても勉強になりました。

新垣さんのお話の中で、ソーシャルワークを実践するのは誰か？との問いかけがありました。

事例では主治医がソーシャルワークの機能を果たしていたようです。自分自身を振り返ってみると、院内外その他職種から依頼があつて動くとか、既に関わっている支援者がいるからソーシャルワーカーの介入は急がないと自己判断していることも正直ありました。時間がない、支援の手立てが浮かばないなど様々なことを理由に介入をためらっている自分に凹みましたが、この気づきが次の実践に活かせるようにしたいです。

また、新垣さんの計らいで久米島病院の小児科医渡邊幸先生に勉強会に同席していただき、「島田療育センターはちおうじ」との連携についてなど子どもの療育の情報を知ることができたことも収穫でした。

私にとっては初めての久米島でしたが、新垣さんの素晴らしいコーディネート力で、島の美味しい食材を使ったバーベキューや名所観光、久米島の方々との交流と島の魅力を存分に満喫させていただきました。また、他の病院の先輩方と明け方まで仕事のこと、家庭のことなど普段は話せないようなことを語り合い、濃密で貴重な時間となりました。来年もまた久米島に行こう～と早くも盛り上がっていますので、会員の皆様は参加のご検討下さい！

\*9月にめだかの放課後の自主勉強会は開催ありませんでした。

## トピックス

\* 2019 年度、毎月第3月曜日の沖縄タイムス「くらし相談(医療)」欄に、県MSW協会員より文章が掲載されま  
す。皆さんご覧になってください。

---

### 家族の悩み 最善の方法 共に考える

中頭病院 秦 克之

---

「どうにかして下さい」。ソーシャルワーカーになって何度か聞かれる言葉。目の前のクライアントの妻もそう  
尋ねてくる。長年、夫がアルコール依存症と診断され、本人だけではなく家族も戦い続けてきた。しかしやがて、  
夫の飲酒頻度が増え、退職を余儀なくされ、経済面で生活を圧迫し、妻は仕事をしながら家族を支える。夫は  
その間、飲酒が続き、医師の精神科受診や断酒会参加の勧めを断り続け、やがて脳が萎縮し・歳とは思えな  
い老人のように衰えていく。

この場所に来るまでに妻はたくさん苦しんできた。疲れ果てた顔と期待する視線。その時、ソーシャルワ  
ーカーは劇的な変化をもたらす解決案がひねりだせないか、考えてしまう。しかし、そんなものはないと知ってもい  
る。本人と家族の積み重ねた歴史の前には役には立たない。

だから、私たちは一緒に迷い考える。生活するためのお金をどのようにするのか、医療費は、本人の意思は、  
家族の意思は。一つ一つ確認し、活用できる制度はないか、どの機関とつながる方が良いのか、その制度や  
機関のできること、できないことを確認し合う。劇的な変化をもたらす策がないことに落胆する人もいる。役に立  
たないと失望する人もいる。

後日、退院日に本人と妻にあいさつした。退職前の職場と相談し、傷病手当が適用できるとわかった。本人と  
妻で話し合い断酒目的での入院は希望しなかったが、外来受診を選択した。2人は目を合わせず、会話はまだ  
ぎこちないが、少なくとも2人で受診してくれる。

劇的な変化ではない、しかしそこにささやかな、でも確かな前進がある。本人と家族が真剣に迷い考え出した  
結論にこそ価値があり意味がある。「どうにかして下さい」。そう頼まれたら、「一緒に考えましょう」と答えるよう  
にしている。(県医療ソーシャルワーカー協会・秦克之)

2019年9月16日(月)沖縄タイムス掲載済み

## 新入会員紹介

---

### 南部徳洲会病院 医療福祉相談室 島袋 あや子

私は、今年の4月から南部徳洲会病院の医療ソーシャルワーカーとして勤務させていただいています。入  
職して約半年が経ち、医療ソーシャルワーカーの業務にも少しずつ慣れてきましたが、まだまだわからないこと  
が多く、日々の業務を通して学ぶことが沢山あると思っています。中々思うように退院調整がいかないことも多

く、悩むこともあります。患者さんや家族の望む退院支援ができた時には、医療ソーシャルワーカーとしてのやりがいを感じることができます。これからも医療ソーシャルワーカーとして、患者さんや家族の望んだ支援ができるように、医療と福祉の適切な知識を身に付け、患者さんをしっかりアセスメントできるよう頑張っていきたいと思います。

## 南部徳洲会病院 医療福祉相談室 平安名 常耶

お疲れ様です。今年の4月から南部徳洲会病院の医療ソーシャルワーカーとして勤務させていただくことになりました平安名常耶と申します。入社してから半年が経ちますが、急性期という環境の中で、関わらせていただくケースはすべて初めてのことが多く、似た内容のケースでも患者さん本人、家族の想いがそれぞれ異なることを実感しております。そのため、先輩相談員に聞いてしまうこともたくさんありますが、ひとつでも多くの知識を吸収し、患者さん、家族が安心してあげられる存在になりたいと感じております。まずは私ができることを一つひとつ丁寧に行っていき、急性期だからこそ、なるべく多く患者さんのところへ足を運び、信頼関係を築いていけるように頑張ります。

### 部会からのお知らせ

#### 10月研修部だより

##### めだかの学校(おおむね経験年数3年未満)

テーマ	10月 休会 ※11月は「ケアマネとの連携について(CMへ講師を依頼予定)」。詳細は後日掲載します。
日時	
会場	
参加費	無料
問い合わせ	大浜第二病院 医療福祉課 謝敷

##### めだかのホームルーム(おおむね経験年数3年以上)

テーマ	11月に予定
日時	月 日 ( )
会場	
参加費	無料(飲食代100円)
問い合わせ	沖縄協同病院 地域連携課 松永

### めだかの放課後(経験年数5年以上)

テーマ	勉強会
日時	10月17日(木)
会場	中頭病院
参加費	無料(飲食代200円)
問い合わせ	大浜第一病院 医療福祉課 當銘

### OGSV

テーマ	コンチネンスセミナー予演会 樋口 / 慢性期医療協会SW部会 事例 検討会振り返り
日時	10月09日(水) 19:00~20:00
会場	那覇市立病院
参加費	無料
問い合わせ	沖縄国際大学 樋口

発行 2019年9月18日  
株式会社 千家 香村真範

---

## 9月理事運営議事録

2019年9月17日(火)19:00~20:30  
場所: 県総合福祉センター

【参加者】樋口会長(司会)、新垣副会長、香村、石郷岡、長、安慶名、大久保(書記)  
【欠席者】又吉副会長、當銘事務局長、奥平、仲地、山城、秦、伊禮、高江洲、小橋川

### <報告事項>

#### 1. 活動報告

#### [研修部]香村理事

##### 1) 初任者研修:開催終了

アンケート報告 第2回開催 7/13(医学講座)19名参加。詳細は資料参照。

27ポイント認定登録、計8名(全日程受講者)へ付与される。

ポイントはあくまで今年度での受講生へ付与

##### 2) 中堅者研修

2020年2月8日(土)10時~17時「ISTT③」@那覇市内 で調整中

詳細が調整つき次第UP予定

### 3)めだかの学校

10月:休会

11月:「ケアマネとの連携について(CMへ講師を依頼予定)」詳細は後日

### 4)めだかのホームルーム

9/15(日)小児事例検討会@公立久米島病院。

次回11月を予定

### 5)めだかの放課後

10/17(木)勉強会@中部病院 予定

### 6)OGSV

10/9(水)19:00~20:00@那覇市立

・10/13(日)コンチネンスセミナー初級講座(社会資源について)予演 樋口会長

・沖縄県慢性期医療協会ソーシャルワーカー一部会事例検討の振り返り

11/13(水)19:00~20:00@那覇市立

・11/23・24九州MSW協会くまもと大会予演会。香村理事より発表者へ連絡する。

12/11(水)19:00~20:00@那覇市立

・中堅者研修シラバスについて

### 7)九州ブロック中堅者研修

・11/22(金)PM開催予定。くまもと大会前日

### [広報部]安慶名理事

1)ニュース担当:赤十字病院 安里さん

2)新入会員紹介:2名

3)タイムス連載記事

10月香村、11月石郷岡、12月伊禮、1月長、2月大久保、3月小橋川

4)はいさいわーく:2病院より受理。10月号・ウェブへ掲載予定。

### [社会活動部]秦理事

・県民健康フェア 8/25(日)開催済。ご協力ありがとうございました。

### 2. 事務局

・会員管理、会計管理は當銘さんから田福さんへ移行中。9月末で半期決算、事業進捗の確認を行う。

### 3. 沖縄県入退院支援連携デザイン事業

各圏域合同調整会議 今後の予定

・9/18(水)14:00~@宮古島市役所

・9/26(木)14:00~@石垣市役所

- ・10/24(木) 第2回北部圏域
- ・11/14(木) 第2回南部圏域
- ・11月6日の週 中部圏域

#### <協議事項>

##### 1. ウェブ管理および協会からの情報発信について:樋口会長

- ・ホームページ関連の更新が必要(役員名簿、協会員数、協会員所属機関一覧等)。
- ・協会会員への郵送については施設単位で発送しているが会員個人まで届きにくいとの声があった。協会事務局の人員体制では発送作業に係る負担が大きくなっていたため、MSW ニュース等は今後ウェブ掲載へ全面移行の方針。代わりにMSWニュースやホームページ更新案内は、LINE登録による一斉通知等のSNSを活用した発信を検討する。

##### 2. 共催依頼:大久保理事

- ・がん診療連携協議会情報提供・相談支援部会主催「がん相談員実務者研修会」へ共催依頼。今年度は年3回を予定。研修会対象者にソーシャルワーカーも含まれるため、会員への周知協力をお願いしたい。理事会にて承認。

##### 3. 老健協会との合同研修会について:樋口会長

日程:2020年2月19日(水)14:00~17:00 予定 調整中(1月の可能性も有)

講師:高知県医療ソーシャルワーカー協会会長 中本雅彦氏 決定

参加者:全体 100名程度

内容:ワールドカフェ?事前アンケート?

- ・好事例と失敗事例両方を扱うのはどうか
- ・地域包括ケアシステムの流れに沿って、急性期・回復期・地域包括ケア・老健それぞれの「急性期から老健への支援」「退院支援、在宅移行支援」「統計的なもの」「老健の区分」「老健の対象者や機能」

#### <その他>

##### 1. 関連学会・研修のお知らせ

- ・8/31(土)日本保健医療福祉学会 樋口会長参加
- ・9/21(土)日本協会会長会 樋口会長参加予定
- ・第19回 沖縄県慢性期医療協会 研究発表会
  - 【テーマ】自分らしく生きる ~地域と共に支える慢性期医療~
  - 【日時】9/28(土)9:30~16:30
  - 【場所】宜野湾市民会館 大ホール
  - 【特別講演】人生会議(ACP)について
  - 【講師】医療法人社団裕和会 長尾クリニック 院長 長尾和宏 先生
- ・9/28(土)市民公開講座・小児がん相談支援部会@コンベンションセンター
- ・10/5(土)がん相談員実務者研修会「がんゲノム医療と相談員の役割」@中部病院
- ・10/12(土)13:30~ 回復期病棟協会研究発表会@てだこホール

・11/17(日)沖縄緩和ケア学術研究会 10時～16時@琉大病院

会員 1000 円、非会員 2000 円 ※詳細はウェブ参照

次回理事会 10月21日(月)18:30～ 司会:當銘 書記:秦 連絡:大久保

## はいさいワーク

事業所名	沖縄医療生活協同組合 沖縄協同病院
応募資格	1 社会福祉士資格取得者または、社会福祉士免許取得の見込みの者 2 協調性があり、チームでの業務に貢献できる者 3 Excel、Word等のパソコン操作ができる者 4 普通自動車運転免許所持者
雇用形態	今年度は非常勤、2020年度採用試験合格後、来年4月より常勤となります。
勤務時間	4週6休制(休日:日・祝・他)、8:30～17:00 6ヶ月経過後の年次有給休暇あり
担当者	沖縄協同病院 総務課 担当:事務次長 後藤
連絡先	TEL:098-853-1200

事業所名	沖縄リハビリテーションセンター病院
応募資格	・社会福祉士資格保持者(取得見込み者含む) * 経験については不問だが、病棟での退院支援業務3年以上の経験者は優遇。
雇用形態	フルタイム 1年間の有期雇用 ただし更新の可能性有り
勤務時間	4週8休制(日祝祭日休み)、8:30～17:30 6ヶ月経過後の年次有給休暇あり
担当者	医療法人タピック 法人事務局 担当:渡口
連絡先	TEL:098-933-8775

### ☆編集後記 ☆

秋晴れの心地よい季節となりました。皆様、いかがお過ごしでしょうか。

今回、お忙しい中、原稿を快く引き受けてくださった方々、有難うございました！！

MSW ニュースは毎月1日、県医療ソーシャルワーカー協会  
ホームページに更新掲載されています  
ホームページでご確認ください。

<http://www.msw-oaswhs.jp/>